

このパンフレットでは、3回にわたって

「まちづくり協議会」や「ぼっけーまち会議」
(若者会議)

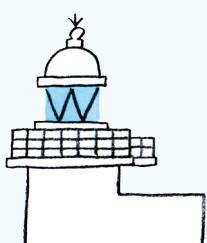
による地域の課題解決の方法や具体的な

取り組み内容を紹介します。



地域を 元気にする まちづくり 作戦帳

～地域の課題解決をめざすためのヒント集～



拠点づくりと 地域の課題解決の取り組み

第3号では、地域の拠点づくりと併せて、
地域の課題解決に向けた取り組みを行っ
ている地区の中から2地区を紹介します。

第3号(全3号)

笠岡市協働のまちづくり課



にいやま 土倉邸@新山

地域に 守られてきた建物

笠岡市北部の新山地区にある、土倉邸。ここは、大正から昭和にかけて医師として主に東京で活躍し、日本女医会の副会長も務めた郷土の偉人、土倉恒氏の生家だ。

だが、かつては土倉邸も管理する人がいなかつた。「地域のみんなに慕われている恒さんの生家が、空き家で寂しい」と思っていた」と語るのは、新山地区自治会の事務員を務める西畠幸江さん。7年前から地域の住民が協力し、掃除や草刈り、屋根の修繕などを一丸となって継続してきた。

また、平成27年度には、大規模な改修工事も実施した。



地域おこし 協力隊とも協力

さらに、自治会は平成28年度から地域おこし協力隊として、井口泰宏さん・安希乃さん夫妻を迎えた。現在は地域おこし協力隊の協力により、交流され、地域の住民と地域おこし協力隊にも受け継がれている。



泰宏さんは、「今自分たちが土倉邸で活動ができるのも、これまで住民の皆さんのがここまで守り続けてくださったからこそ。地域の温かさを感じられるような場所にしていただきたい」と改めて決意した。

住民の想いが地域おこし協力隊にも受け継がれている。

井口さん夫妻は共に20歳代の若さながら、既に20カ国以上での活動経験がある。得ら





島小屋@六島



学生の アイデアを活かして

六島まちづくり協議会は、岡山県の最南端にあり、笠岡市内で人口が最も少ない協議会だ。同協議会では、平成23年度からまちづくりに外部の視点を取り入れようと、イン

ターンシップを行ってきた。

これは、学生に六島へ来て長期滞在してもらい、島民と学生が協働して島の将来について考える取り組みだ。平成28年夏までに計8期にわたって実施され、延べ21名の学生を受け入れてきた。



実現させたかった」と話す。敷地内には、れんが製のピザ窯があつたり、敷地隣にも手作りの公園があるが、これらも学生のアイデアがきっかけでできたものだ。

第2期までは六島の魅力などの調査を行い、第3期からは「集落で高齢化と空き家増加が進む中で、空き家を活用してみんなが集まる拠点を作ろう」と島小屋プロジェクトが始動。第5期からは工事が始まった。一連の取り組みが始めた。多くの島民と学生が参加・協力した。そして平成28年11月、新しい拠点兼農家民宿施設として島小屋がオープンした。

同協議会長の三宅忠信さんは「いろいろと迷うこともあつたが、学生のアイデアをぜひ



草取りから始まり、
地域の方や子どもたち含め
多くの人に支えられて
多くすくすくと育っています



**麦作戦をきっかけに
島の昔話を聞き出したり
秋祭りに参加して
若者と島民の交流が生まれています**



岡山県最南端の六島
で、しばらく休耕となっていた畑に、この冬、
麦の芽が出た。この小さな芽は、
「六島麦畑復活作戦」プロジェクトで種まきしたもの。「僕の祖母は六島の出身で、かつて六島で麦を栽培していたことを教えてくれました」と、リーダーで、地域おこし協力隊も務める井関竜平さん。毎年お盆に帰省を重ねているうちに、六島の魅力に気づいたという。「六島には美しい景色だけでなく、ぬくもりのある島民同士のつながりがあります。このコミュニティを守りたい、何か島のために力を尽くしたいと考えていた時に、ぽつねーまち会議がはじまりました。六島と麦の組み合わせで、何か生み出せるのではないかとひらめいたんです」。井関さんの言葉に、中心メンバーの城戸鷹志さんも大きく頷いた。

島民に畑の土地を紹介してもらい、井関さんたちがまず取りかかったのは、頑固に根をはつ

た草取り。手作業だけでなく手押しの耕運機も使いながら、2日かけて畑らしい姿へ戻した。六島まちづくり協議会の協力もあって、種まきや麦踏みなどの畑仕事には、17人のプロジェクトメンバーだけでなく、島の子どもたちや通りすがりの方々も奮って参加してくれるそうだ。また、麦をきっかけに島の昔話を聞き出したり、六島大鳥神社秋祭りにも参加したりと、プロジェクトの枠を越えて、若者と島民の交流も生まれている。



ぼっけーまち会議（若者会議）とは？

「婚姻率上昇」「希望する子どもの数が持てる」「転出抑制・転入促進」の3つのテーマについて、若者が自ら考え、企画し、実行するという取り組みです。平成28年1月から毎月1回開催しており、これまで延べ約600人の若者が参加しました。現在、約10のプロジェクトが進行中で、その一部を各号で紹介します。

ウェブページ：<http://www.bokke-machi.com>



六島麦畑復活作戦プロジェクト

井関竜平さん
城戸鷹志さん

（リーダー・写真右）

（写真左）

